

おはよ

兵庫県障害児学校教職員組合（障教組）
神戸市中央区北長狭通5丁目2-10
高教組内 Tel:078-341-6745

No4 2020.5.22 全職員版

学校再開に関わる多くの不安や要求

県（特別支援教育課）に直接訴えました！



5月18日 障教組要求書提出

現在、障教組は ZOOM で執行委員会を行ったりグループ LINE を利用したりして、情報交換を随時行っています。その中で、分散登校の際「バス乗車時の健康確認をどうしたらいいのか?」「教室や共有する教具はどれぐらいの頻度で消毒が必要なのか?」といった具体的な疑問や、衛生用品の備蓄が少なく入手しにくい現状への不安、教職員の勤務に関わる要求など多くの課題があることが分かったので、要求書にまとめて県教委特支課に訴える機会を持ちました。要求書の項目は次の通りです。(骨子)

- 下記のような現場で抱えている不安や疑問に応えること。対応の基準を示したり、Q&A を Web 上に公開するなど、スムーズな情報共有に努めること。

<通学>・スクールバス乗車時のルールの徹底と車内の換気について(民間委託も同様)
・自力通学生の感染防止(指導の難しさ、路線バスの増便依頼など)
<生活>・教室が密になることの対策 ・消毒の頻度 ・給食指導の難しさへの対応
<寄宿舍>・防犯上難しい換気 ・分散登校の交通費支給の課題

- 下記のような必要な備品・消耗品・設備を県として整えること

・消毒液とスプレーボトル ・体温計(非接触型) ・マスク ・サーモグラフィ
・オートソープディスペンサー ・靴底ふき抗菌マット ・小さいスペース(テント含む)

- 教職員が安心して勤務できるよう、次のような措置を講じること

・妊娠教員や本人と家族の事情によって出勤に不安がある場合の休暇取得などの措置
・養護教諭の増員 ・感染が出た場合の対応の明確化
・施設や病院併設の訪問学級で閉鎖が継続した場合の教員の勤務についての指針

- 現場の教職員の意向を尊重し、民主的な学校運営に努めること

・「個別の指導計画」策定を急がせないこと
・接続すらスムーズにできない Classi 活用の疑問に答えること、教育の機会均等に努めること
・管理職が独断で判断せずに職員の合意を大切にすること

裏面に要求書に対する県の見解を載せています

「学校再開に向けては次の前提で」と示されたのが次の二点です。

感染防止が最優先。その工夫を学校で考えてほしい。
(三密回避)できないのであればしない。

必要なものは学校で購入してもらったらよい。
要るものは要る。補正予算も組む。学校でよく相談してほしい。

消毒液や衛生用品が手に入りにくい現状については、医療機関優先であり教育委員会で押さえるのは難しいから各学校でという見解でした。感染防止のための空間や衛生管理の基準を示してほしいという要求に対しては、学校規模や地域・種別の違いなど多様な中で一律の基準に縛られるという難しさがある、文科省のマニュアルなどを参考に学校で工夫してほしいという回答でした。いささか学校まかせの姿勢に疑問を感じますが、必要な物をどんどん学校で準備したらよいという方針だと分かったので、それは安心ですね。休暇制度の拡充などは今後詰めていきます。問題があれば組合にご相談下さい。

子どもと働く者を守る組合に入りましょう!

申し入れを終えてやっぱり気になった副課長のひとこと

「ClassiのID作成項目は中学生からしかない、小学部の子はそもそも想定外では?」と聞くと「大丈夫です! その他という枠で入れます!」と笑顔で回答。
あの子たちは「その他」ですか……



「コロナ禍が問うもの～勇ましい言葉よりも～」

劇作家の平田オリザさんが、ある日の神戸新聞に論評を寄せられていました。自粛生活が続く中で宮沢賢治の「雨ニモマケズ」が話題になっているようだが、あの詩で本当に大事なものは「雨ニモマケズ」頑張っていこうではなく、「日照リノ時ハ涙ヲ流シ、寒サノ夏ハオロオロ歩キ」の方ではないかと書かれていました。今、テレビではポピュリストと目されてきた首長の勇ましい言葉が飛び交っている。もちろんリーダーが「オロオロ歩キ」では困るし、非常時に人は強いリーダーシップを求めたがる。でもそれが社会の分断や一部の人を罵倒することにつながりかねないという危惧を、平田さんは書いておられました。感染を恐れるあまりヘイトや「自粛警察」の横行が報じられています。今、求められているのは、お互いの苦しみに寄り添い、涙する心ではないかと……。

特別支援学校の子供達には社会的弱者と言われ、社会のひずみを一番受けます。保護者もこの間のやるせない思いを貯めておられることでしょう。少しずつ学校が始まって登校してくる子供達に、身体的な距離は取らざるを得ないけれど心の距離は縮めて、悲しみや苦しみに寄り添える教師でありたいと強く思います。